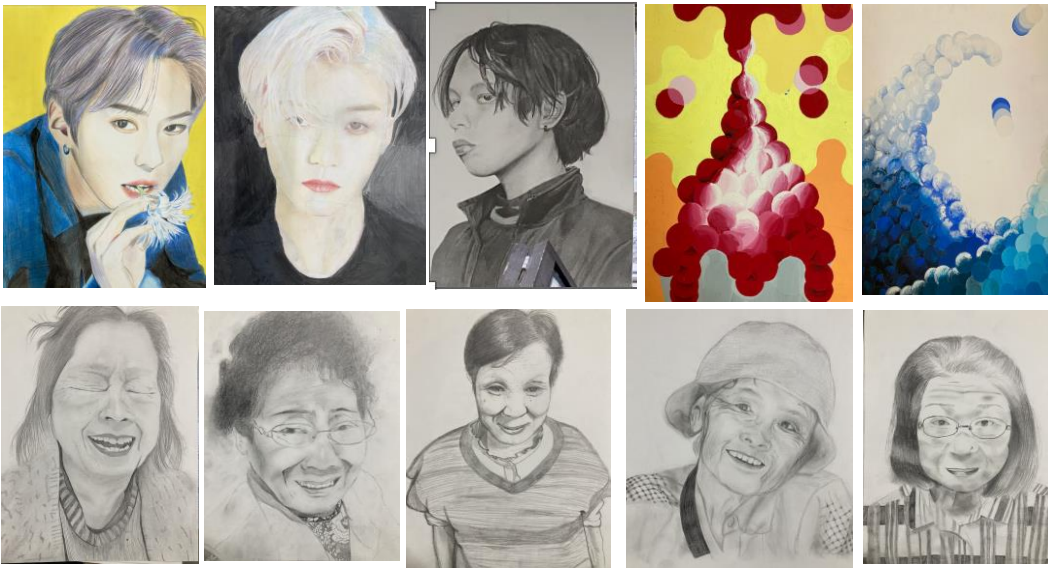


学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	唐沢		
科目名	美容理論（まつ毛エクステ）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	3
教育目標・ ねらい	衛生管理、カウンセリング、健康被害のリスクを理解し、安全・安心な技術の習得を目指す				
授業回	学習内容				備 考
1	まつ毛エクステンションとは 【到達目標】まつ毛エクステンションのメリット、デメリットを学び、カウンセリングの重要性を理解する				
2	まつ毛エクステンションの用具、衛生管理 【到達目標】まつ毛エクステンションで使用する用具を理解し、道具に合わせた消毒方法、管理方法を理解する				
3	眼に関する知識、皮膚に関する知識、まつ毛に関する知識 【到達目標】まつ毛エクステンションを施術する上で、眼、皮膚、毛髪に関する知識を学習し、衛生管理の重要性を理解する				
到達目標	衛生的な道具の管理、まつ毛エクステンションのメリット、デメリットをお客様に伝えることができる				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	公益財団法人日本理容美容教育センター まつ毛エクステンション				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	唐沢		
科目名	美容理論（日本髪・着付け）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	2
教育目標・ ねらい	日本の伝統技術、日本髪と着物の名称を理解する				
授業回	学習内容			備 考	
1	日本髪について 【到達目標】日本髪の由来、各部の名称、種類と特徴、装飾品を理解する着付理論 【到達目標】着付けの目的、礼装、着物と季節、着物の種類、帯、小物、着物各部の名称を理解する				
到達目標	美容師国家試験において、日本髪、着付けの出題内容が理解できる 着付け、日本髪の基本知識を説明することができる				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	日本髪・着付け理論プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	村田		
科目名	美容理論（化粧品検定1級）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	10
教育目標・ ねらい	美容部員として必要な手技や知識を学び企業人としての見識や教養を深める。				
授業回	学習内容			備 考	
1	化粧品の歴史と原材料：現代に至るまでの化粧品の歴史と使用されている原材料と配合成分について学ぶ。				
2	スキンケア化粧品：クレンジング・洗顔などの洗浄用化粧品、化粧水や美容液などの基礎化粧品について学ぶ。				
3	メイクアップ化粧品：ファンデーションなどのベースメイクアップと配合される紫外線対策の成分について知る。				
4	メイクアップ化粧品：アイメイクなどのポイントメイクアップ用品とボディケアについて学ぶ。				
5	毛髪の構造とヘアケア製品：毛の構造を知り、必要な洗浄剤やタイプ別の手入れなどを学ぶ。				
到達目標	化粧品検定1級を通して、美容部員としての通常業務において必要な手技・用語の理解、知識の獲得。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	日本化粧品検定1級公式テキスト				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	池田		
科目名	美容美術（造形学）	学 年	2 年	実施時期	前期・後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	1,2年次のデッサン、デザインの創造活動を活かし、実践的なメイクワークも行うなかで、卒業後のキャリアプランを描くことができる。テーマに挑戦するといった経験が卒業後、各職場で即戦力となる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	ヘアーデッサンⅠ-資料の拡大、模写の方法 [到達目標]①模写する人物の画像をA3に拡大コピーして持参する。顔に明暗があり立体感のある毛髪の流れや顔の表情など魅力を感じる描きやすい資料がよい。②資料の模写の準備,マス割ができる。③線の凹凸、ガイドの線を通る位置、線の濃淡など、1マス1マス確認しながら顔などの輪郭線の模写を進める。全体の2割は描き進める。			A3ケント紙、模写する人物写真「推し」の人物でも良い、定規、鉛筆、練りゴム	
2	1.ヘアーデッサンⅡ [到達目標]①凹凸に気をつけて輪郭を全体的に描く。②一番暗い部分の形を塗る。③顔を中心に毛髪や目、唇等を明暗に気を配り濃淡をつけ描く④ガイド線を消してから陰影をつけ、立体感を出す。全体の4割まで進める。			模写する人物写真、定規、鉛筆、練りゴム	
3	1.ヘアーデッサンⅢ [到達目標]①毛髪の輪郭、暗部が描けたらガイド線を消し、鉛筆や濃淡をつけてゆく。ねりゴムで明部を描く。②稜線など顔の面の向き（前面と側面）や動きによって、明暗が変化していることを理解する。明暗の描写で顔や毛髪の立体表現ができる。6.7割まで進める。③別課題「人物デッサンⅣ」-昨年度未完であった早描きの人物画1人を素早く仕上げる。全体を見渡す復習になる。 <input checked="" type="checkbox"/>			模写する人物写真、定規、鉛筆、練りゴム、色鉛筆	
4	ヘアーデッサンⅣ[到達目標] ①ぼやけている箇所は指でぼかしたり、はっきりしている箇所は細部を詳細にさらに描き深める。②背景は特に描きたいものは描き、人物を際立たせるよう人物の輪郭処理に注意する。8.9割まで進める。③全体のバランスに配慮し、濃淡をより洗練させ作品を仕上げる。④長時間デッサンに向き合い、描写と表現行為の中で人間に対する美の感情を深める。2.次課題、円の配置、色彩効果の解説			模写する人物写真、定規、鉛筆、練りゴム	
5	円の配置、色彩効果Ⅰ [到達目標]規定の円を用い各自でテーマを決め作品を作る。円の配置によって動きを、色彩効果によって感情や情景を自由に表現する。配色カードで使う色を計画する。1年次の色彩の基礎を応用し、目的に合わせ色使いをより洗練させる。人物や文字風景など円以外の任意のモチーフを描いても良い。4,5割着色を進める。			A4ケント紙、絵の具一式、定規、水入れ、配色カード	
6	円の配置、色彩効果Ⅱ [到達目標]着色を進める中で、色の変化が適切か、退屈な部分にはワンポイントを足すなど完成に向け工夫をし丁寧に <u>仕上げる</u> 。作品を見る相手にそれが伝わっているか考え、より美しく良いデザインに改善、刷新する。			絵の具一式、定規、水入れ、配色カード	
7	色彩効果を用いたアイメイクの考案 [到達目標]5.6の授業で学んだデザインを活かし、アイメイクを考案できる。目・鼻・口の形を生かし、顔全面を使ってアイメイクのデザインを描き <u>仕上げる</u> 。幾何学模様であったり曲線を美しくくねらしたり自由なものを考案できる。			A4ケント紙、絵の具一式、定規、水入れ、配色カード	

授業回	学習内容	備 考
8	<p>老婆の模写Ⅰ ※自分の祖父母の写真を資料とすると未来の自分の老人像と繋がるのでさらに良い。</p> <p>[到達目標]マス目に沿って老婆の模写をする。でっぱり凹みに注意してアウトラインを描く。老人の筋肉の衰えに伴い重力によって垂れ下がる箇所を学ぶ。顔の形の変化やシワのつき方を観察しじっくりと描くことで習得することができる。2割描き進める。</p>	<p>モデルとする老婆の画像を A4にコピーして持参、A4ケント紙、定規、鉛筆、練りゴム</p>
9	<p>老婆の模写Ⅱ</p> <p>[到達目標]ぼかしたり明暗を使いながら、顔のシワや皮膚のシミのリアルな描写を目指すことで、自然な線の描写を習得する。集中力を持続させ描く。進みが遅い場合は全体の把握をしながら完成に向け最短コースを意識して描く。6割まで進める。</p>	鉛筆、練りゴム
10	<p>老婆の模写Ⅲ</p> <p>[到達目標]①8.9で学んだ立体感、凹凸の出し方、筋肉に沿った線の入れ方、線のぼかしなどを使い、この後、学生が各々の顔に老婆のメイクをすることを想定し、老婆の模写を完成させる。</p> <p>○補足課題…早く終わった学生用。スクラッチやペン画など用意</p>	
授業作品例		
到達目標	<p>色彩の理論を生かし、自らの選んだテーマに沿って作品を形づくり、発表することができる。地道な努力で粘り強く取り組み、期待するような色彩、描画を描けるようになる。デッサンで学び、そこでの学びを実際にメイクに活かすことができる。</p>	
評価方法	<p>作品のデザイン性と完成度、仕上がりで、各課題を採点します。課題にかかる時間数や重要度により、ヘアーデッサン、円の配置、アイメイク、老婆の模写、老婆のメイクの課題をそれぞれ5:3:2:3:2（予定）で集計し、副課題の加点、提出遅れや居眠り、制作遅れ等の減点を行い成績点といたします。全課題を提出する必要があります。</p>	
テキスト	配布プリント	

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	藤野		
科目名	美容実習（メイク）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	30
教育目標・ ねらい	要望に合わせたメイク技術と提案力を身に着け、現場や様々なシーンで対応できるようにする				
授業回	学習内容				備 考
1	テスト別 メイク	マットな肌づくり マット肌に合わせたメイク ※ before・afterで写真を撮り、フェイスチャートにまとめる			
2		セミマットな肌づくり セミマット肌に合わせたメイク ※ マットとセミマットの絶妙な質感の違いを理解する			
3		ツヤな肌づくり ツヤ肌に合わせたメイク ※ スキンケア、ベースの重要性を再確認			
4		グロッシーな肌づくり グロッシー肌に合わせたメイク ※ ツヤとグロッシー（みずみずしいツヤ）などの絶妙な質感の違いを理解			
5		ダークメイク 濃い暗いカラーでのメイク ※ 濃いカラーアイテムでのグラデーション、リップの強化			
6		ヌーディーメイク ヌーディーな色味を抑えたメイク ※ 色味を抑えたメイクによりアイブロー、アイラインの正確さが際立つことを確認			
7		ヌーディーメイクを要望に合わせたメイクチェック 30分 ※ 色味を抑えたメイクによりアイブロー、アイラインの正確さが際立つことを確認をチェック			
8.9		カウンセリングをし要望に合わせたメイクをする①～③ ※1 施したメイクのプレゼンテーション発表をし、プレゼンテーション力を上げる ※2 要望のイメージを詳しく深くまで掘り下げ、聞き出す力、イメージ共有の力を身につける ※3 要望、お客様の肌質、悩みなどから適したアイテムを選択し、メイクができるようにする			
10.11					
12.13					
14.15		前期実技試験 要望に合わせたメイク 30分			
到達目標	要望に合わせたメイク技術と提案力を身に着け、現場や様々なシーンで対応できるようにする				
評価方法	各期実技試験及び授業内チェック、メイクシートにより評価する。なお、所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	藤野		
科目名	美容実習（メイク）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	30
教育目標・ ねらい	シーンに合わせたメイクをカタチにできる技術力とプレゼン力を身に着ける				
授業回	学習内容				備 考
1.2	ブライダル	和装メイク ※1 写真を撮りフェイスチャートにまとめる ※2 着物の写真を見て、その衣装に合うメイクをする			
3.4		洋装メイク① ※ドレスの写真を見て、その衣装に合うメイクをする			
5.6		洋装メイク②			
7	メンズメイク	メンズメイク ※ 男性モデルを各自用意			
8.9	ブライダル	和装、洋装メイク チェック			
10.11	メイク	シーン、テーマに沿ったメイク① ※ 2年間で学んだメイクの集大成とする			
12.13		シーン、テーマに沿ったメイク② ※メイクの仕上がりとその意図などをプレゼンテーションする			
14.15		《後期実技試験》 シーン、テーマに沿ったメイク 30分			
到達目標	シーンに合わせたメイクをカタチにできる技術力とプレゼン力を身に着ける				
評価方法	各期実技試験及び授業内チェック、メイクシートにより評価する。なお、所定授業時間数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	安東		
科目名	美容実習（メイクセラピー 1 級）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	36
教育目標・ ねらい	化粧心理学、メイクセラピー的心理学、カウンセリング概論を理解し、相手の心に寄り添う接客ができる 「オーダー」された内容のメイクを施すことができる				
授業回	学習内容			備 考	
1	メイクセラピー検定 1 級の内容とレベル、審査基準について 2 級の復習【到達目標】 2 級で学んだことを想起・復習する				
2	カウンセリング対策（傾聴スキルを学ぶ） 【到達目標】 カウンセリングに必要なスキルを理解する				
3	カウンセリング対策（ロープレ実習①アイスブレイク・繰り返し） 【到達目標】 カウンセリングに必要なスキルを習得する				
4	メイク & カウンセリング実習（1 級例題①） 【到達目標】 カウンセリングスキルを使いながらオーダーメイクができる				
5	カウンセリング対策（ロープレ実習②共感・要約） 【到達目標】 カウンセリングに必要なスキルを習得する				
6	筆記試験対策（対話分析） 【到達目標】 筆記試験に出る対話分析問題が理解できる				
7	カウンセリング対策（ロープレ実習③ペーシング・承認） 【到達目標】 カウンセリングに必要なスキルを習得する				
8	カウンセリング対策（ロープレ実習④質問） 【到達目標】 カウンセリングに必要なスキルを習得する				
9	筆記試験対策（論述） 【到達目標】 筆記試験に出る論述問題が正しく解答できる				
10	メイク & カウンセリング実習（1 級例題②） 【到達目標】 カウンセリングスキルを使いながらオーダーメイクができる				
11	メイク & カウンセリング実習（1 級例題③） 【到達目標】 カウンセリングスキルを使いながらオーダーメイクができる				
12	メイク & カウンセリング実習（1 級例題④） 【到達目標】 カウンセリングスキルを使いながらオーダーメイクができる				
13	実技試験総復習 【到達目標】 不得手な個所を復習し合格レベルまで改善させる				
14	筆記 & 実技試験の総復習 【到達目標】 合格レベルに達する知識と技術を身に着ける				

授業回	学習内容	備 考
15	筆記 & 実技試験の総復習 【到達目標】 合格レベルに達する知識と技術を身に着ける	
16	メイクセラピー検定 1 級 筆記	
17	メイクセラピー検定 1 級 実技	
18	メイクセラピー検定 1 級 実技	
到達目標	心理学に基づいたメイク手法を理解し、相手の要望に沿って美しく表現する技術を身につける。相手の心に寄り添う会話術（傾聴スキル）を身につける。	
評価方法	検定の過去問題を使用し、実技（メイク・マナー・カウンセリング）および筆記（対話・論述問題）が 1 級合格基準に達しているかを評価する。なお、所定授業時数（全体の 4/5）を下回る学生は受験することができない。	
テキスト	メイクセラピー検定 1 級・2 級テキスト	
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は10年以上の美容部員の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う	

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	唐沢・藤野		
科目名	美容実習(セット試験課題)	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ ねらい	ヘアセットを学びながら、ヘアメイクアップアーティストに必要な立ち振る舞いと共に理論と技術修得を目指す				
授業回	学習内容				備 考
1～3	イメージ分類とイメージごとの作成技術 【到達目標】イメージ分類とイメージごとのスタイル作成が出来るようになる				
4～14	イメージごとでデザインシート作成とスタイル作成 【到達目標】テーマに対してを30分でスタイルを作れるようになる				
15・16	テーマをもとにデザインシートの作成とスタイル作成 【到達目標】イメージ理論を理解し、理論に基づいた知識をもとにデザインシートとスタイルが作成できるようになる				
17・18	要望に応じたイメージをデザインに落とし込む 【到達目標】要望を読み取りデザインに落とし込むことができる				
19～29	要望に沿うデザインシート作成とスタイル作成 【到達目標】テーマに対してを30分でスタイルを作れるようになる				
30	要望をもとにデザインシートの作成とスタイル作成 【到達目標】要望を理解し、理論に基づいた知識をもとにデザインシートとスタイルが作成できるようになる				
到達目標	イメージ理論を理解し、理論に基づいた知識をもとにデザインシートとスタイルが作成できるようになる				
評価方法	各実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	配布資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	唐沢・藤野		
科目名	美容実習(デザインヘア)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	16
教育目標・ ねらい	ヘアセットにおけるポイントごとの技術力を高め、セットスタイルにおける総合力を高め 現場での即戦力化を目指す。				
授業回	学習内容				備 考
1～2	フロント 【到達目標】フロント作成の際、複数のイメージパターンを作成できる				
3	ストレートアイロン 【到達目標】ストレートアイロン使用の際、複数のイメージパターンを作成で きる				
4～5	サイド 【【到達目標】サイド作成の際、複数のイメージパターンを作成できる				
6	トップ 【到達目標】トップ作成の際、複数のイメージパターンを作成できる				
7	アンダー 【到達目標】アンダー作成の際、複数のイメージパターンを作成できる				
8	カールアイロンクリエイティブ 【到達目標】カールアイロン使用の際、クリエイティブなデザインを作成でき る				
到達目標	ヘアメイク現場に必要なセット技術を身に付け、卒業後即戦力として活躍できるようになる				
評価方法	各期実技チェック(100点満点)で評価する。なお、所定授業指数(全体の4/5)を下回る学生 は受験することができない				
テキスト	配布資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏ま え、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	唐沢・藤野		
科目名	美容実習(デザインヘア)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	16
教育目標・ ねらい	ヘアセットにおけるシーンごとのヘアセット技術を高め、セットスタイルにおける高い総合力を持ち、現場での即戦力化を目指す。				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	汎用性のあるウェディングヘアスタイル理論を学び、応用力を身に付ける 【到達目標】 汎用性のあるウェディングヘアスタイルを作ることができる				
3・4	汎用性のある成人式スタイル理論を学び、応用力を身に付ける 【到達目標】 ベーシックな成人式スタイルが作成できるようになる				
5・6	汎用性のあるパティースタイル理論を学び、応用力を身に付ける 【【到達目標】 ベーシックなパティースタイルが作成できるようになる				
7	汎用性のあるまとめ髪理論を学び、応用力を身に付ける 【到達目標】 ベーシックなまとめ髪スタイルが作成できるようになる				
8	総合 【到達目標】 複数のイメージパターンのアップスタイルを作成できる				
到達目標	ヘアメイク現場で必要なセット技術を身に付け、卒業後即戦力として活躍できるようになる				
評価方法	各期実技チェック(100点満点)で評価する。なお、所定授業指数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	配布資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野		
科目名	美容実習(セット相モデル実習)	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	24
教育目標・ ねらい	ウィッグではなく人に技術を施すことで、憧れだった職業を現実的に体感し接客や技術力 向上を目指す				
授業回	学習内容			備 考	
1	カウンセリングシートをもとに要望を把握し、ブローセットやイメー ジづくりにおけるより高度な技術の提供を学ぶ 【到達目標】お客様の要望を引き出し方と要望に応えるヘアセット技 術を知識として理解して説明ができる				
2～7	相モデル実習 【到達目標】お客様の要望を引き出し方と要望に応えるヘアセット技 術をシートにまとめ、その要望にこたえられる技術提供が出来る				
8	カウンセリングシートをもとに要望を把握し、ブローセットやイメー ジづくりにおけるより高度な技術の提供を学ぶ 【到達目標】お客様の要望を引き出し方と要望に応えるヘアセット技 術を知識として理解して説明ができる				
9～12	相モデル実習 【到達目標】お客様の要望を引き出し方と要望に応えるヘアセット技 術をシートにまとめ、その要望にこたえられる技術提供が出来る				
到達目標	モデルの要望を引き出し、カウンセリングシートにまとめ、対象者に応えられる技術提供 ができる				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業指数(全体の4/5)を下回る学生は受 験することができない				
テキスト	配布資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏ま え、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	境		
科目名	美容実習（ジェルネイル中級）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	24
教育目標・ ねらい	ネイルの基礎知識・基礎技術を習得し、 安全且つ衛生面に配慮し技術工程を行うことが出来る				
授業回	学習内容			備 考	
1	・ ネイルフォーム練習 【到達目標】 長さ出しに必要なネイルフォームの使用方法を理解する				
2	・ ジェルスカルプチュア説明、練習 【到達目標】 ジェルネイルの特性を理解し、長さ出しができるようになる				
3	・ 中級流れ確認 【到達目標】 ジェルネイル技能検定中級と同じスケジュールの技術工程を覚える				
4	・ タイムトライアル 【到達目標】 ジェルネイル技能検定中級受験と同じスケジュールで技術工程を行うことが出来る				
5	・ タイムトライアル、苦手練習 【到達目標】 中級内容と同じスケジュールで技術工程を行うことが出来、合格レベルの仕上がりが作れるようになる				
6	・ ネイル実技試験(中級) 【到達目標】 ジェルネイル技能検定中級内容を理解し正しい手順、技法で施術することが出来る				
到達目標	正しく、安全にネイル道具を使用することができるようになる JNAジェルネイル検定中級レベルの技術を習得しサロンワークで活かせるようになる				
評価方法	実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	JNAテクニカルテキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員はネイルサロン経営者として、また日本ネリスト協会本部認定講師としての経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	唐沢		
科目名	美容実習（着付け）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	24
教育目標・ ねらい	街着を着付けることができる				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	道具のセッティング、着物のたたみ方（復習） 【到達目標】着付けのお仕度の仕方、並べ方、着物ののマナーを知り、本だたみ、夜具だたみ、貸衣装のたたみ方、長襦袢のたたみ方を理解する				
3～5	補正について、肌襦袢、長襦袢（復習） 【到達目標】補正～長襦袢までの着付けを理解する				
6～8	補正から着物（復習） 【到達目標】補正～着物までの着付けを理解する				
9～11	補正から帯（復習） 【到達目標】補正～帯までの着付けを理解する				
12	タイムトライアル 【到達目標】実技試験の流れを理解し、道具のセッティングから時間内に終わらせることができる				
到達目標	肌着、長襦袢、街着を着付け、二重太鼓の帯を結ぶことができる				
評価方法	実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	日本髪・着付け理論プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	渡辺・唐沢		
科目名	美容実習（着付け）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	30
教育目標・ ねらい	街着を着付けることができる				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	着付室の使い方、トルソーの扱い方、道具について 【到達目標】着付け室におけるマナーを知り、お客様への心遣い、着付け師としての所作、動作、道具の扱い方を理解する				
3・4	道具のセッティング、着物のたたみ方 【到達目標】着付けのお仕度の仕方、並べ方、着物のマナーを知り、本だたみ、夜具だたみ、貸衣装のたたみ方、長襦袢のたたみ方を理解する				
5・6	補正について、肌襦袢、長襦袢 【到達目標】補正～長襦袢までの着付けを理解する				
7・8	補正から着物 【到達目標】補正～着物までの着付けを理解する				
9・10	補正から帯 【到達目標】補正～帯までの着付けを理解する				
11～13	タイムトライアル 【到達目標】実技試験の流れを理解し、道具のセッティングから時間内に終わらせることができる				
14	準備審査（10分）模擬試験（40分）仕上がり審査（30分）講評 【到達目標】本試験に向けて、仕上がりにおける審査基準を共有し、美しい着物姿に仕上げることができる				
15	準備審査（10分）実技試験（40分）仕上がり審査（30分）講評 【到達目標】着付け師としての所作、動作、道具の扱い方ができ、街着を着付けることができる				
到達目標	肌着、長襦袢、街着を着付け、二重太鼓の帯を結ぶことができる				
評価方法	実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	日本髪・着付け理論プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	唐沢		
科目名	美容実習（まつ毛エクステ）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	40
教育目標・ ねらい	まつ毛エクステンションの装着、リムービング、テーピング技術の習得 衛生管理を危惧し、安全・安心な技術の習得を目指す				
授業回	学習内容			備 考	
1	まつ毛エクステンションについて 【到達目標】地まつ毛1本に人工毛を1本つける技法を理解する				
2	用具について 【到達目標】備品、道具、用材、材料を理解し、それぞれの用具の使用方法、 選定方、保守管理などを理解する				
3	衛生管理 【到達目標】器具類の消毒方法を学び、消毒液の作り方、消毒液の保管、消毒 済器具類の保管方法、消毒容器の使用方を理解しテーブルセッティングする ことができる				
4	グルーの使用目的、種類と特徴、使用上の注意 【到達目標】特性、使用方を理解する				
5・6	ツイザーの持ち方 【到達目標】基本的なツイザーの持ち方をマスターし、地まつ毛のかき分け、 Jカールのエクステンションを装着できるようになる				
7～10	エクステンションの装着 【到達目標】まつ毛エクステンションの長さ、カール、太さを学び、Cカール のエクステンションを装着できるようになる				
11・12	テーピング、リムービング 【到達目標】施術補助テープの種類と役割を学び、用途に合わせたテープの選 び方、テーピングの使用、リムーバーで丁寧に取り除くことができる				
13～15	サロンワークでのまつ毛エクステンション 【到達目標】カウンセリングから施術、アフターカウンセリングまでの流れを 理解し、サロンワークにおける注意事項を理解する				
16・17	タイムトライアル 【到達目標】実技試験の流れを理解し、道具のセッティングから時間内に終わ らせる				
18・19	準備時間（10分）模擬試験（50分）講評 【到達目標】衛生的に道具が配置されている まつ毛の装着、リムービング、テーピングが規定通りにできる				
20	準備時間（10分）実技試験（50分）講評 【到達目標】衛生的に道具が配置されている 安全・安心な作業をすることができる				
到達目標	基礎となるJカールの装着、リムービング、テーピングを施術することができる				
評価方法	実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験 することができない				

テキスト	公益財団法人日本理容美容教育センター まつ毛エクステンション
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野		
科目名	高度実習（ヘア）	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	選択必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ ねらい	ヘアスタイリング・カラーリング・シャンプーイング・撮影技術等のヘアメイクアップアーティストに必要な高度な知識、技能を身に付けるとともに、ヘアサロンにて使用するで基本的技術を学び広く活躍できる技能の習得を目指す				
授業回					備 考
1～10	ヘアシャンプーの基本的なテクニックと実践 ヘアスタイリングにおけるブローテクニック 【到達目標】 サロンワークにおける基本的テクニックを身に付けモデル対応をもできるようにする				
11～24	デザインカットスタイルとスタイルに合わせたヘアカラーリングのテクニックを学ぶ 【到達目標】 ヘアカット理論を理解しカットスタイルを作成できるヘアカラーリングの理論を理解し、スタイルに合わせたヘアカラーリングが出来るようになる				
25～30	デッサン画を作成し、作品作りを行う。また、校内チェックをへてコンテストに出場する				
到達目標	ヘアスタイリング・カラーリング・シャンプーイング・撮影技術等のヘアメイクアップアーティストに必要な知識・技能を身に付け、一から作る作品作りを通して要望に応えられる技能と能力を身に付ける				
評価方法	各実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	配布資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	岩崎		
科目名	国家試験必須科目（衛生管理）	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	20
教育目標・ ねらい	環境衛生を学び病気にならないようにする、感染症をの総論を学ぶ。				
授業回	学習内容			備 考	
1	環境衛生と環境に対するヒトの適応 「到達目標」環境の要因、空気成分、有毒物質を理解し、人への影響を説明できるようになる。				
2	住居の衛生 「到達目標」温度・湿度、衣服、冷暖房の基本、上下水道、廃棄物の種類と健康との関係を説明できる。				
3	感染症総論 「到達目標」感染症発見に業績を残した人物を説明できるようになり。感染症の分類（法律等）を覚え、その特徴も説明できるようになる。			小テスト実施	
4	病病原微生物の構造 「到達目標」微生物の形や大きさを知り、構造の働きも理解する、また増殖の仕方も理解し説明できるようになる。				
5	感染と感染経路 「到達目標」感染にはどのようなものがあるか、感染経路の分類等を覚え説明できるようになる。				
6	感染症各論 「到達目標」代表的な感染症の症状、原因微生物、感染経路、予防対策を理解し説明できるようになる。				
7	消毒法総論 「到達目標」汚染・感染・消毒・殺菌等の言葉の定義を覚える、施行規則の消毒の方法を理解し説明できるようになる。			小テスト実施	
8	消毒法各論 「到達目標」理学的消毒法・化学的消毒法の長所・短所を覚え、適切な消毒法を選択できるようになる。				
9	濃度計算・衛生管理の実践例 「到達目標」器具の扱い方や濃度計算ができるようになる、実践例はピックアップして説明できるようになる。				
10	総復習・・前回の小テスト解説、通信教育用（報告課題）の解説 「到達目標」テストや報告課題の解説で、衛生管理の知識が身につくようになる。			通信教育用テスト 実施	
到達目標	衛生管理を理解し、公衆衛生の向上に寄与できるようになる。				
評価方法	習熟度テスト、小テスト（習熟度テスト80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	衛生管理(日本理容美容教育センター指定教科書)				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	木村		
科目名	国家試験必須科目（保健）	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	22
教育目標・ ねらい	保健（人体）の基礎知識を得て美容の実践に活かせるようにする				
授業回	学習内容				備 考
1	体表解剖学、骨格器系の主な名称や働きを学ぶ 【到達目標】人体の体表、骨格器系の働きを理解する				
2	筋系、神経系の主な名称や働き、理美容の作業と筋疲労の関係を学ぶ 【到達目標】筋系、神経系の働き、筋と疲労の関係を理解する				
3	感覚器系、血液・循環器系の主な名称や働きを学ぶ 【到達目標】感覚器系、血液、循環器系の働きを理解する				
4	呼吸器系、消化器系の主な名称や働きを学ぶ、人体各部を総合的に理解する 【到達目標】呼吸器系、消化器系の働きを理解し、国家試験のポイントを掴む				
5	① 皮膚の構造の主な名称や働きを学ぶ ② 皮膚付属器官の構造の主な名称や働きを学ぶ 【到達目標】				
6	①皮膚の循環器系と神経系の働きを学ぶ ② 皮膚と皮膚付属器官の生理機能を学ぶ 【到達目標】				
7	皮膚と皮膚付属器官の保健を学ぶ 【到達目標】皮膚と付属器官の健康を理解して業務に役立てる				
8	皮膚と皮膚付属器官の疾患を学ぶ、皮膚科学全般を復習する 【到達目標】疾患を知り、業務に役立てる				
9	人体、皮膚科学の重要点を整理する 【到達目標】保健科目のポイントを掴む				
10～11	国家試験の過去の出題を分析、解説する 【到達目標】国家試験を知り合格を目指す				
到達目標	美容師、皮膚の専門家としての知識を身につける。国家試験を知る。				
評価方法	習熟度テスト、小テスト（習熟度テスト80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	保健(日本理容美容教育センター指定教科書)、配布プリント				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	村田		
科目名	国家試験必須科目(香粧品化学)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	美容部員として必要な香粧品に用いられる薬剤の成分や効能を学ぶことで企業人としての 見識や教養を深める。				
授業回	学習内容			備 考	
1回	配合成分：香粧品の品質維持に必要な防腐剤・殺菌剤・紫外線吸収 剤・酸化防止剤・収れん剤などについて学ぶ。				
2回	ネイル・まつ毛エクステンション材料：近年増加してきたマツエクの 注意点・安全性などについて学ぶ。 【基礎化学】酸・塩基				
3回	基礎香粧品：洗浄用香粧品・化粧水・クリームや乳液の効果や成分に ついて学ぶ。				
4回	メイクアップ用香粧品：ファンデーションやアイメイクアップ用品の 配合成分や分類について学ぶ。 【基礎化学】酸化・還元				
5回	シャンプー剤：頭皮毛髪の洗浄・健康維持のための用品についてシャ ンプー・リンス・トリートメントについて学ぶ。				
到達目標	美容部員としての通常業務における使用薬剤・効能などの知識の獲得				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成 績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	香粧品化学（日本理容美容教育センター指定教科書）				

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	今野		
科目名	国家試験必須科目（文化論）	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	8
教育目標・ ねらい	流行を追う心理、流行が社会に及ぼす影響、流行が美容業において意義と役割を学ぶ				
授業回	学習内容				備 考
1	文化論を学ぶ目的について 時代背景、ヘアスタイル・服装の流行を学ぶ 第2章 日本の理容業・美容業の歴史 第1節 理容業・美容業の発生、第2節 江戸時代の理容業・美容業 第3節 近代の理容業・美容業、第4節 現代の理容業・美容業 【到達目標】 美容文化の歴史及び沿革について説明することができる。				小テスト実施
2	第3章ファッション文化史 日本編 第6節 近代（明治・大正・昭和20年まで） 第7節 現代Ⅰ(1945年～'50年代)、第8節 現代Ⅱ(1960年～1970年) 第9節 現代Ⅲ(1980年～1990年) 第10節 現代Ⅳ（(2000年以降） 【到達目標】 歴史を学び、ヘアスタイルとファッションの変革について説明ができる				小テスト実施
3	第5章 礼装の種類 第1節 和装の礼装、第2節 洋装の礼装 【到達目標】 和装と洋装の種類を理解し説明することができる				小テスト実施
4	第3章ファッション文化史 日本編 第6節 近代(明治・大正・昭和20年まで)、第7節 現代Ⅰ(1945年～'50年代) 第8節 現代Ⅱ（1960年～1970年）、第9節 現代Ⅲ（1980年～1990年） 第10節 現代Ⅳ（2000年以降） 第5章 礼装の種類 第1節 和装の礼装、第2節 洋装の礼装 【到達目標】 近代明治時代から2000年以降の流行（髪型・服装）を理解し、時代ごとに説明することができる。				小テスト実施
到達目標	美容文化の歴史及び沿革、髪型、服装の変遷について理解し、説明することができる。				
評価方法	小テスト（12問）にて7問以上得点すること。6問以下は再テストを実施する。 日本理容美容教育センターレポート100点満点で評価する。評価評点60点以上とする。 59点以下は再レポートを実施 なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	文化論(日本理容美容教育センター指定教科書)、通信教育レポート（2課題）				

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	藤野		
科目名	国家試験必須科目（運営管理）	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	経営者が果たす責任・役割、雇用及び社会人としての基本的事項（税金・社会保険）を学習することにより美容業の運営に役立てる能力を養う。				
授業回	学習内容			備 考	
1	第1編経営とは・経営者とは 第2節 継続が難しい理由＝経営が必要な理由 1. 変化、2. 競争、3. 経営の必要性 第2節 収支と損益P34 1. 収支とは、2. 損益とは、3. 収支と損益が異なる例 第3節 会計の考え方 1. 会計が目指しているもの、2. 会計の考え方 【到達目標】 経営の仕組み、収支、損益を理解し、説明できる。			小テスト実施	
2	第5章 税金について 1. 税金の種類とその内容、2. 税金を支払うタイミング 第2節 社会保険① ～公的年金～ 1. 国民皆保険制度、2. 国民年金（基礎年金）、3. 厚生年金保険 【到達目標】 税金、公的年金を理解し、説明することができる。			小テスト実施	
3	第3節社会保険② ～医療保険～ 1. 国民皆保険制度、2. 健康保険、3. 国民健康保険、4. 介護保険 第4節 社会保険③ ～労働保険～ 1. 雇用保険、2. 労働者災害補償保険 【到達目標】 社会保険制度を理解し、説明することができる。			小テスト実施	
4	税金・ 公的年金・医療保険について 【到達目標】 税金・公的年金・医療保険について仕組みを理解し説明することができる			小テスト実施	
到達目標	経営のしくみ、税金、社会保険についてメリット、デメリットを説明することができる。				
評価方法	小テスト（12問）にて7問以上得点すること。6問以下は再テストを実施する。 日本理容美容教育センターレポート100点満点で評価する。評価評点60点以上とする。 59点以下は再レポートを実施 なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	運営管理(日本理容美容教育センター指定教科書)、通信教育レポート（3課題）				

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	今野		
科目名	国家試験必須科目 (美容技術理論)	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	9
教育目標・ ねらい	美容技術の知識を学び、衛生的、能率的に実践する態度と習慣を養う。				
授業回	学習内容			備 考	
1	美容理論 1 序章 美容実技理論を学ぶにあたって 1章 美容用具、2章 シャンプーイング おさらい 【到達目標】 美容用具の種類と特徴を理解し、実習の場面で活用することができる			小テスト実施	
2	美容理論 1 3章 ヘア デザイン、4章 ヘア カット 【到達目標】 美容用具の種類と特徴を理解し、実習の場面で活用することができる			小テスト実施	
3	美容理論 1 第5章 パーマネントウェービング、第6章 ヘアセッティング、第7章 ヘア カラーリング 【到達目標】 美容用具の種類と特徴を理解し、実習の場面で活用することができる			小テスト実施	
4	美容理論 1 <総合> 第1章～第7章 国家試験筆記試験対策 【到達目標】 美容用具の種類と特徴を理解し、実習の場面で活用することができる			小テスト実施	
5	美容理論 2 第8章エステティック、第9章ネイル、第10章メイクアップ、第11章日本髪 第12章着付けの理論と技術 【到達目標】 美容用具の種類と特徴を理解し、実習の場面で活用することができる			小テスト実施	
到達目標	美容技術の意義を理解し技術を行う場面で論理的に展開できる。 美容で使用する用具類の特徴を理解しメリット、デメリットを説明することができる。美容における化粧品・医薬部外品の成分を理解し、自分の考えに基づき施術ができる				
評価方法	小テスト（12問）にて7問以上得点すること。6問以下は再テストを実施する。 日本理容美容教育センターレポート100点満点で評価する。評価評点60点以上とする。 59点以下は再レポートを実施 なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	美容理論 1・2（日本理容美容教育センター指定教科書） 通信教育レポート：美容理論 1（4課題） 美容理論 2（4課題） 美容実習 1（3課題） 美実習 2（3課題）				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野・唐沢・藤野		
科目名	国家試験課題実習(ワインド)	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	20
教育目標・ ねらい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容とあわせて理解し、資格試験課題第二課題ワインディングを合格レベルまでの技術を修得する				
授業回	学習内容				備 考
1	国家試験課題第二課題ワインディングの理論を学び、コームワーク、ブロッキングの取り方、ワインディング方法、課題の構成についておさらいをする。 【到達目標】理論と技術行程を理解して、規定に則った作品を作ることができる				
2～5	国家試験第二課題一連タイム入れ（国家試験学校指定タイム20～25分） 【到達目標】国家試験合格レベルに向けて学校の既定時間での作品作成が出来る				
6～9	国家試験第二課題一連タイム入れ（国家試験学校指定タイム20分） 【到達目標】国家試験合格できるレベルに到達すると共に修得した技術を応用レベルで活かすことができる				
10	国家試験第二課題一連タイム入れ（国家試験学校指定タイム18分） 【到達目標】国家試験合格レベルであること、修得した技術を応用レベルで活かすことができる				
到達目標	資格試験課題第二課題ワインディング理論、構成を理解し、合格レベルまでの技術を修得する				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野・唐沢・藤野		
科目名	国家試験課題実習（カット）	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	40
教育目標・ ねらい	理論の基礎とともに、技術内容とあわせて理解し、資格試験課題第一課題を合格レベルまでの技術を修得する				
授業回	学習内容				備 考
1～5	国家試験課題カッティング 一連タイム入れ（50分～30分） 【到達目標】国家試験合格できるレベルに到達する				
6～12	国家試験課題カッティング技法を使用した作品の説明 国家試験課題レイヤースタイル一連タイム入れ（30分～20分） 【到達目標】国家試験合格レベルであることと共に修得した技術を 応用レベルで活かし方を説明できる				
12～19	国家試験課題カッティング タイム練習（20分～15分） 【到達目標】タイム内に国家試験合格できるレベルに到達する				
20	国家試験課題カッティング試験 タイム入れ（20分） 【到達目標】国家試験合格レベルであることと共に修得した技術を 応用レベルで活かすことができる				
到達目標	資格試験課カッティングの基礎を理解し、合格レベルまでの技術を修得し、応用的に活かすことができる				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野・唐沢・藤野		
科目名	国家試験課題実習(オールウェーブ)	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ ねらい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容とあわせて理解し、資格試験課題第二課題オールウェーブセッティングを合格レベルまでの技術を修得する				
授業回	学習内容			備 考	
1～3	ウィッグ作製、ローション塗布、コームの持ち方説明 ヘアセッティング理論、授業の流れ説明(フル・オールウェーブ) 【到達目標】 ウィッグの適切なコンディションを判断できる。 理論的に完成形の構成及び授業の進行を説明できる。				
4	1段目くり抜き、ウェーブ・リッジ展示・練習 2.3段目ウェーブ・リッジ展示・練習 【到達目標】 基礎となるコームの持ち方、動かし方ができる。 頭の丸みに沿ってハーフウェーブを形成することができる。				
5	4～7段目ウェーブ・リッジ展示・練習 フルウェーブ練習 【到達目標】 頭部形状、作業面に合わせて適切な作業姿勢をとることができる。 頭部の形状に沿ってフルウェーブを形成することができる。				
6～10	フルウェーブタイム入れ(50～25分) 【到達目標】 定められた時間内に任意のフルウェーブを形成することができる。				
11	フルウェーブ25分チェック 【到達目標】 25分間で意図したフルウェーブが形成でき、失格事項についても審査対象と ならない。				
12	1段目ピンカール展示・練習 1段目復習、3段目スカルプチュアカール展示・練習 【到達目標】 任意の範囲でハーフウェーブを形成することができる。 フラットカールの要点を理解し、作り上げることができる。				
13	1.3段目復習、4段目以降ブロッキング、4段目Cカール展示・練習 1～4段 目復習、5段目CCカール展示・練習 【到達目標】 フルウェーブのつながり、頭部の部位ごとのバランスを理解し、カールスペースを分けとることができる。 ウェーブとのつながりを意識して、カールを形成することができる。				

授業回	学習内容	備 考
14	1～5段目復習、6段目メイポールカール展示・練習 1～6段目復習、7段目クロッキノールカール展示・練習 【到達目標】 カールにおける毛先の処理、ピンングが適切にできる。 作業面の変化に対して、適切な姿勢をとり、カールを形成できる。	
15	3～7段目各カール練習 オールウェーブ練習、国家試験構成確認 【到達目標】 オールウェーブの規定を説明できる	
16～20	オールウェーブセッティングタイム入れ(50分～30分) 【到達目標】30分間で規定内のオールウェーブセッティングを形成することができる。	
21	オールウェーブセッティング30分実技試験 【到達目標】30分間で国家試験合格レベルノオールウェーブを形成することができる。	
13～29	国家試験第二課題オールウェーブセッティングタイム入れ（国家試験学校指定タイム25分） 【到達目標】国家試験合格レベルであること、修得した技術を応用レベルで活かすことができる	
30	国家試験第二課題オールウェーブセッティングタイム入れ（国家試験学校指定タイム25分） 実技試験 【到達目標】国家試験合格レベルのオールウェーブセッティングを形成することができる。	
到達目標	美容技術理論の基礎とともに技術内容と併せて理解し、資格試験課題第二課題・オールウェーブセッティングを合格レベルまでの技術を修得し、作品として作り出せる	
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない	
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）	
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う	

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	唐沢・藤野		
科目名	ビジネスマインド	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	社会人・職業人として、組織の中で自分が振る舞うビジネスマナーを正しく理解し行動変容を行う 加えて、自身の課題に向き合う課題発見能力や問題解決能力を養い、 <u>自律した思考と行動の実践。</u>				
授業回					備 考
1	LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー（復習） 「6-1 時間のマナー、6-2 仕事上のコミュニケーション、6-3 PDCA」 【到達目標】職場での円滑な関係性を築くための基本マナーの習得。				ビジネス マナーテキスト p 51～54
2	LESSON2 身だしなみ+立ち居振る舞い（復習） 「2-1 身だしなみ、2-2 立ち居振る舞い」 【到達目標】『品性』のある身のこなしを学び、実践する。				ビジネス マナーテキスト p 10～15
3	LESSON3 言葉遣い①「1-2 OK行動、3-1 敬語、3-2 敬語のテクニック、 3-3 気になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】職業人としての言葉の使い方を学び、表現できる。				ビジネス マナーテキスト p 16～24
4	LESSON3 言葉遣い②「1-2 OK行動、3-1 敬語、3-2 敬語のテクニック、 3-3 気になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】職業人としての言葉の使い方を学び、表現できる。				ビジネス マナーテキスト p 16～24
5	LESSON1 ビジネスパーソンとは① 「1-4働く心構え」入社直前編 【到達目標】『9つの意識』を理解し、働く上で必要なマインドとコンピテン シーを具体的に言語化し、正しい価値観・職業観を学び、就職に備える				オリジナル教材 Powerpoint K J 法ワークショップ
6	LESSON1 ビジネスパーソンとは② 「1-4働く心構え」入社直前編 【到達目標】『9つの意識』を理解し、働く上で必要なマインドとコンピテン シーを具体的に言語化し、正しい価値観・職業観を学び、就職に備える				オリジナル教材 Powerpoint K J 法ワークショップ
7	LESSON1 ビジネスパーソンとは③ 「1-4働く心構え」入社直前編 【到達目標】『9つの意識』を理解し、働く上で必要なマインドとコンピテン シーを具体的に言語化し、正しい価値観・職業観を学び、就職に備える				プレゼンテーション
8	クラス目標・個人目標振り返り				クラスミーティング
到達目標	社会人として自分の立ち位置や直面する状況を理解し、適切な対応をとることができる。 このことにより組織の一員として認められるようになる。				
評価方法	個人目標振り返りによる自己評価と、それに基づく担任面談の結果による。なお、所定授 業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	ビジネスマナーテキスト				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	唐沢・藤野		
科目名	情報処理	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	ファッションウィーク秋冬、春夏でのヘアメイクの流行を調べ、内容をまとめプレゼンを行う。業界にて必要な年代ごとにおける価値基準共有し、流行を説明出来るようにする				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	ファッションウィークをテーマに、本年と翌年の流行を読み取りレポートにまとめる 【到達目標】 ビューティ業界の流れを読み取り、時代背景をプレゼン出来る資料作りが出来る				
3	作成した資料をもとにプレゼンを行い議題をもとに討論をする 【到達目標】 伝わるプレゼン力(年代ごとの流行)を身に付けると共に流行における価値観の共有が出来ている				
4～7	共有した価値観をヘアメイクを通して形に出し、作品を通して改めて本年と翌年の流行をプレゼンしていく 【到達目標】 流行の説明と共にヘアメイクの仕上げ方やポイントをより深く説明することができる				
8	プレゼンした内容をデータ構築して情報として流せる形を作る 【到達目標】 伝わるプレゼン力(年代ごとの流行)を情報として伝えられる形を作る				
到達目標	次代を読み取りヘアメイクの流行を調べ、作品作りと共に内容をまとめプレゼンを行う。業界にて必要な年代ごとにおける価値基準共有し、流行を説明、情報提供出来るようにする				
評価方法	授業課題(プレゼン資料と作品)を総合的に採点(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	配布参考資料、レポート用紙				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	柳井		
科目名	表現技術（接客心理）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	接客するために必要な「商品・サービスの商品属性研究」「ニーズの創造」 スムーズな接客ができるようになる				
授業回	学習内容			備 考	
1	接客心理検定とは 第3章接客コミュニケーションテクニック ・ポジティブハロー ・初頭効果 ・単純接触の原理 ・親近効果 〈ワーク〉自己紹介			P52～P58	
2	第3章接客コミュニケーションテクニック ・一面提示・両面提示 ・OATH理論 ・マズロー欲求段階説 〈ワーク〉欲求のワーク			P59～P68	
3	第3章接客コミュニケーションテクニック ・コントラスト ・アンカリング ・コミットメント 〈ワーク〉コミットメント			P69～P78	
4	第3章接客コミュニケーションテクニック ・接客距離・笑顔の硬化 ・返報性・時間の共感・記憶 ・カクテルパーティ効果 〈ワーク〉パーソナルスペース・聴く技術（態度、繰り返し、促し）			P79～P87	
5	第3章接客コミュニケーションテクニック ・カタルシス・フットインザドア ・ドアインザフェイス ・親和性を高める 〈ワーク〉恋愛のメカニズム感情のメカニズム・セルフイメージミッションビ ジョン			P88～P93	
6	第3章接客コミュニケーションテクニック ・アップセル・ダウンセル・クロスセル ・希少性の原理 ・空間心理 ・色 彩心理 〈ワーク〉質問する技術・聴く技術（要約）			P94～P106	
7	第3章接客コミュニケーションテクニック ・自己成熟・認知的不調和 ・ボディランゲージ 〈ワーク〉良い接客・悪い接客・聴く技術（共感）スキーマボードの作成			P107～P119	
8	第一章商品属性の研究 ・属性名と属性値 ・属性値の決定 ・トレンド便乗の方法 〈ワーク〉商品の属性値を考える・聴く技術（共感）スキーマボードの作成			P2～P16	
9	第一章商品属性の研究 ・属性値を購買プロセスに組み込む ・認知スキーマ(スキーマボード) ・記憶 〈ワーク〉スキーマボードの作成・聴く技術（承認）			P17～P26	
10	第一章商品属性の研究 AIDMA法則・認知スキーマ・バーナムフォアラー効果 〈ワーク〉スキーマボード作成			P27～P33	

授業回	学習内容	備 考
11	第2章 情報とコミュニケーション ・正しい言葉遣い ・情報とコミュニケーション ・談話能力 ・練習問題（過去問題）、解説 〈ワーク〉スキーマボード作成・ペーjing	P36～P43
12	第2章 情報とコミュニケーション ・社会言語能力 ・方略的言語能力 ・練習問題（過去問題）、解説 〈ワーク〉スキーマボード作成/商品プレゼンテーション	P44～P50
13	試験対策① 筆記練習問題（過去問題①）、解説 ・実技試験対策①	—
14	試験対策② 筆記練習問題（過去問題②）、解説 ・実技試験対策②	—
15	接客心理検定 準2級試験日	—
到達目標	顧客の心理を理解し、接客時のコミュニケーションの基本を身につける。	
評価方法	授業態度、出席状況、ノート提出、過去問題80点以上合格とする。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。	
テキスト	接客心理検定 3級テキスト	

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	Reina		
科目名	ファッション学(キャラクターメイク)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	40
教育目標・ ねらい	クオリティの高い作品を作れるよう、見た目だけではなく、歴史背景や物語、キャラクターを理解した上で作品制作を行う。上辺だけではない深みのある作品を作る為に必要な要素を学ぶ。				
授業回	学習内容			備 考	
1	神話とその歴史・材料について				
2	ペイントテクニック・ブラシワーク				
3	デッサンシート作成			グループワーク	
4・5	デッサンシートに基づき実習			グループワーク	
6・7	作品制作→提出用作品の撮影			グループワーク	
到達目標	全国規模で行われるフォトコンテストの入賞を目指す。クオリティの高い作品を提出する。				
評価方法	プロジェクト課題作成の有無、出欠席と撮影作品の仕上がりから評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	テーマに沿って作成したパワーポイントを使用。				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は自ら主宰する美容サロンでの実績に加え、各種メディアでのグラビア、化粧品会社の広告宣伝等におけるメイクアップの経験により培った特殊メイク、ボディペイント等に関する高度な知識と技術を伝える				

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	近田		
科目名	ファッション学（トレンドメイク）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	4
教育目標・ ねらい	メイクのトレンドや旬なコスメ情報を学び、メイクの引き出しと表現力の幅を広げる。デモストレーションや資料を見ながらトレンド情報を発信。季節の肌作りからメイクバランスを理解し、メイクアップで表現出来るようになる。				
授業回	学習内容				備 考
1・2	SSメイクトレンド ・春夏のトレンド知識を学び、トレンドの傾向の理解とメイクで表現出来るようになる。				
到達目標	メイクの流行を理解し、トレンドメイクバランスの習得、メイクアップで表現出来るようになる。				
評価方法	演習においてモデル実践での習熟度より100点満点で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	配布資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は15年以上の化粧品会社専属メイクアップアーティストとしての経験を活かし、個性を引き立て、なりたいイメージに合わせたメイク提案と、施術者自身で再現できるメイクアップ方法についての授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	古 荘		
科目名	ファッション学（フォト）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義・実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	5
教育目標・ ねらい	写真撮影のセンスと機材の取り扱いを学ぶ。ファッションフォト撮影がそれほど難しくな いものだ、と認識してもらう。				
授業回	学習内容			備 考	
1	スタジオを設定し、各自でカメラの設定を行い、ヘアメイク作品を作 成する。				
2	1回目とはまた別のライティングによる、スタジオでの撮影実習。				
到達目標	人物撮影に関し、ライティングを活用した撮影が出来る				
評価方法	作品提出により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席 者は評価対象としない。				
テキスト	オリジナルテキスト「美容フォト資料」「美容フォト資料 設定編」				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	唐沢・藤野		
科目名	ファッション学(美翔祭)	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	56
教育目標・ ねらい	実際にお客様を担当することで、憧れだった職業を現実的に体感し、接客や技術向上を目指す				
授業回	学習内容			備 考	
1	ヘアショーテーマ・内容決め 【到達目標】 年度ごとの大テーマをもとにショーテーマを決めて、関わる人が満足するショー内容を決定する				
2	ショーの構成・ファッション・ヘアメイク内容決め 【到達目標】 テーマを感じさせる構成やヘアメイク・ファッションを決めて全体で共有をする				
3～4	ショーのデッサン作成とモデル決め ヘアメイク練習 【到達目標】 イメージをデッサン画におこし、モデルを決め必要な用具や衣装など準備物の確認と共にヘアメイクの練習を行いイメージを形にする				
5～14	各担当(演出・音響・照明・モデル・技術者)に分かれショー(作品)に関するブラッシュアップと内容の共有を図る 【到達目標】 ショー全体を動かすことで必要なことを発見し、コミュニケーションによる共有を図り、全体の最終仕上がりのイメージ全体で構築する				
15～22	本番当日のスケジュールを組み立て、スケジュールに沿って各担当が当日の動きに合わせて仕込みとステージ練習を行い、終了時にミーティングと共に全体の改善を図る 【到達目標】 当日と同じ動きでショー全体がテーマを感じさせる最上の作品に仕上がっている				
23～28	現場リハーサルを行う 【到達目標】 本番のステージにて照明・音響等の最終仕上げ確認を行い本番に向けショーに関わるすべての人が満足する仕上がりにする				
到達目標	ヘアショーを通し、各担当が一つの事柄を協力して仕上げていき、関係するすべての人に満足していただけるヘアショーに仕上げる				
評価方法	ショーにおける全体評価を行う。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	参考資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	唐沢・藤野		
科目名	学外実習	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	① 業界理解を深める為、実際の現場で業務の流れを学ぶ ② 主体的に仕事に取り組む姿勢を学び、仕事の優先順位を学ぶ				
授業回	学習内容				備 考
1	【学外実習①】 この実習を通して具体的な就職先(企業・組織)を明確にする 1年次：5月 30時間 (1日8時間勤務) 実習先：美容サロン(ヘアメイク部門)・ネイルサロン・ブライダルサロン等				
到達目標	1. 現場体験を通してビューティ業界に携わる自己の職業観・職業意識を確立する 2. 学内で学んだ知識と技術を活かし、現場で「お客様」にはならず、どんな役割でもきちんとこなし、スタッフに愛され、重宝される存在として、存在価値を認めてもらえる人間となる				
評価方法	実習先からの評価と本人評価をもとに担任面談を通して学外実習の最終評価を行う。なお所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は評価を受けることができない				
テキスト	配布プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	齋藤・星野・唐沢		
科目名	学内コンテスト	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	選択	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	ヘアショー・匠すと(校内コンテスト)をとおして協調性・協同・競争して一つの物事を成し遂げることで業界理解や社会性を養い、学生全体が今後の業界で活躍できる力を養う				
授業回	学習内容			備 考	
1～6	《美翔祭》 クラス内で話し合い、テーマ・作品・演出等を決定する。計画に沿ってクラスメイトが協同し、関係するすべての人に満足していただけるヘアショーに仕上げる 【到達目標】 学年でたてたヘアショー計画行動に移すことができる。 関係するすべての人に満足していただけるヘアショーに仕上げる				
7・8	《匠すと》 校内コンテストで年度の最終成果物を作成し、研鑽してきた技術を競う 【到達目標】 出場競技ごとにイメージした作品を作り上げ、成果物として提出・参加をする				
到達目標	ヘアショー・匠すと(校内コンテスト)をとおして協調性・協同・競争する姿勢の大切さを理解し、今後の業界で活躍できる力をつける				
評価方法	行事ごとでの成果物に対し評価を行う。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	参考資料・配布資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				